

前期から後期へ

台風による臨時休業やコロナ感染症感染拡大防止に伴う学級閉鎖等もありましたが、前期97日間で終了しました。この間、良かったこと、悪かったこと等、様々なことがありましたが、子どもたち一人一人の成長を感じることができました。特に、1年生は、がんばっていると思います。

下の写真は、前期最終日の1年生の授業風景です。1組も2組も授業中の姿勢が、とてもすばらしいと思います。後期もこの調子でがんばってほしいと思っています。



上手になりました

近年、児童数が減少し、どの学校においても、外庭掃除への配当数が減る傾向がみられます。教師の目が届かないという理由もあるかもしれません。本校の場合は、ただでも敷地が広くて、人手も足りず、しかも屋外は目が届かない状況でした。

そこで、今年度は各学級にお願いして、私が指導を行うという条件で、外庭掃除に子どもたちを多めに配当してもらいました。そして、「外庭掃除の皆さんは、今日は〇〇に集まってください。」と昼休みに放送を入れ、清掃が必要な場所にみんなを集める方法を取っています。年度当初、さぼり気味だった子どもたちやどうしていいのかわかっていた子どもたちも、これまでの経験をとおして、最近かなり手際よく作業ができるようになってきました。また、家庭での経験のちがいが作業に大きく影響するので、低学年でも作業が上手な子どももいます。



12日(水)には、学びの森の樹木を剪定した枝や運動場を刈り払いした草を、1～6年生の20人程で袋に詰めてもらいました。事前に、袋に詰めやすい長さに枝を短く切っておき、「今日は、一人一袋詰めてください。」とお願いしました。すると、15分間の掃除で、30袋も上手に詰めてくれました。驚くほどのがんばりでした。これからも、美しい学校づくりのためにがんばってくれると期待しています。

一輪車の整備

気温が下がってくるこれからの屋外での運動を推進するために、全ての一輪車の点検・修理を行いました。かなり古いものもありますが、現在17台の一輪車が乗れるようになりました。



また、新しい一輪車と整理スタンドを購入し、20台揃える予定です。子どもたちが、積極的に使い、きれいに片づけができるようになればと期待しています。

